

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなかにぎわい空間維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課	まちなかにぎわい空間維持管理事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間	開始年度	H30	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかにおけるイベントの開催や市民の憩いの場として提供するため、適切に維持管理を行う。 災害時に活用できる設備（かまどやトイレ）の維持管理を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	当該施設を活用し、中心市街地の賑わいの創出及び市民の交流を促進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		中心市街地歩行者通行量（平日・5日）	人	値が大きいほど良い	4700	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	・利用状況 1件 ・目視による点検の実施（直営・随時） ・ポイ捨てごみや張り紙の撤去（直営・随時） ・植栽の剪定や除草作業（業務委託） ・災害時に活用できる設備や物品の点検（直営）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		施設を利用したイベント数	回	0	1	0	1
		業務委託発注回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	85	58	58	61
		一般財源	千円	85	58	58	61
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	維持管理を適切に行うことによって、市民の憩いの場を提供できた。 イベント利用を通して、施設の存在や防犯機能を知ってもらうことができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		中心市街地歩行者通行量（平日・5日）	人	5125	5675	4858	5629	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 随時業務改善を行いながら、引き続き適切な維持管理を行う。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなか回遊促進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	R6	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	まちなかを巡るイベントを開催することで、中心市街地及び地域市街地の回遊を促進する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地及び地域市街地の来訪者が増加し、出店者同士の交流が促進され、人の交流が盛んな商業地域となる	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人	値が大きいほど良い	4700	5000	5100	5200	5300
		地域市街地歩行者通行量（平日2カ所）	人	値が大きいほど良い	950	1000	1050	1100	1150

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	中心市街地及び地域市街地の飲食店等を回遊するスタンプラリーを実施。 期間：令和8年1月17日～令和8年2月28日	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		スタンプラリーの応募者	人			20	105
		参加店舗数	店			21	34
		事業費計	千円	0	0	764	484
		一般財源	千円			764	484
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	店舗の周知を図り、にぎわいのある商業地域となっている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			中心市街地歩行者通行量（平日5カ所）	人			4858	5629	効果が上がった	○
			地域市街地歩行者通行量（平日2カ所）	人			877	828	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	目標達成	達成	効果				
	目標未達成だった指標数	1指標				効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
効果が上がった指標数	1指標	1指標								
効果は変わらない指標数	0指標						1指標			
効果が下がった指標数	1指標									
指標全体	効果は変わらない									
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった							※ 1 0 万円以上の増減により判断	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度の反省を踏まえ、令和7年度はイベント対象時間を設けなかったことから、参加店舗及び応募者の増加につながった。 広報や市公式SNSで周知を図るものの、市単体での実施では周知等広がり欠けるため、イベント後半時期に「知らなかった」という声が多く寄せられた。より効果的な周知が課題である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 民間団体等と連携し周知等広がりのあるイベントの実現を検討していく必要がある。また、自走型運営体制の検討も行う必要がある。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなか活性化ビル管理運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		まちなか活性化ビル管理運営		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係		事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			開始年度	H22	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	まちなかの賑わい創出及び情報発信の拠点施設として、各階の事業が適正に実施され、利用者が快適に過ごせるよう維持管理を行う。また、建物北側外壁に設置された電光掲示板や館内での情報掲示等により情報の発信を行う。 【各階利用状況】1階「人間国宝田村耕一陶芸館」、2階「市民ギャラリー」、3階「チャレンジショップ」
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設管理上の瑕疵による事件事故の防止及び各階の事業の適正実施を推進する。また、施設全体の利用者を増加させる。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		施設管理上の瑕疵による事件事故の発生件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		まちなか活性化ビル利用者	人	値が大いほど良い	8000	8050	8100	8150	8200

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・必要な業務委託の発注とその検査 【主な委託業務】 受付等業務、清掃業務、機械警備業務 等 【主な修繕工事】 4階給水管改修工事 等 ・電光掲示板への掲示作業 【掲示内容の例】 チャレンジショップ出店紹介、火災予防や交通安全啓発 等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		業務委託実施件数	回	11	9	9	9
		修繕・工事・設備購入発注件数	件	7	8	8	10
		電光掲示板掲示回数	回	25	25	35	27
		事業費計	千円	18,606	15,368	16,711	18,948
		一般財源	千円	18,468	15,250	16,566	18,864
		特定財源（国・県・他）	千円	138	118	145	84
		（うち受益者負担）	千円	138	118	145	84

（3）活動による効果

効果説明	おおむね事件や事故等なく施設を利用してもらうことができ、各階の事業の実施に貢献できた。 漏電や雨漏り等が発生したが、関係各課や業者に早急に連絡をし、対応した。 電光掲示板や館内でのポスター掲示等を通して、情報発信を行うことができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設管理上の瑕疵による事件事故の発生件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		まちなか活性化ビル利用者	人	6189	6860	7806	5669	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標			1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
指標全体		効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

設備の老朽化等に伴い電気設備等の突発的な不具合がほぼ毎年発生している状況で、職員の現場対応や想定外の事務が発生している。 そのため、安全面や各階の事業の継続性等のリスク、経年劣化等による不具合発生の可能性等を総合的に判断して、修繕や改修の実施を検討・実施する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 技術センターや専門業者等の意見を聞きながら、必要な修繕等は早急 to 実施する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなか活性化推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H28	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	ー	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなかにぎわい創出等業務委託をさのまちづくり(株)へ発注し、空き店舗実態調査及び相談業務、SNSによるまちなか情報の発信等を実施し、まちなかの賑わい創出を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	人流・店舗が増えることで、中心市街地の賑わいを創出する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	値が大きいほど良い	4,700	5000	5100	5200	5300
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大きいほど良い	170	180	190	200	210

(3) 目標値

↓選択して下さい

後期計画

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・まちなかにおける空店舗等について実態を把握し、「まちなか居住」「商業活性化」促進のための施策を推進する基礎資料作成（空店舗調査、相談業務、SNSまちなか情報発信等） ・歩行者通行量調査	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		業務委託実施件数	件	4	2	3	2
		事業費計	千円	7,168	4,158	3,946	3,938
		一般財源	千円	7,168	4,158	3,946	3,938
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	人の交流がさかんな商業地域となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	5125	5675	4858	5629	効果が上がった	○
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が下がった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
指標全体		効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度中のまちなか活性化に関する協議会設立に向けて準備を行っていたが、設立には至らなかった。令和8年度中の設立に向けて、引き続き関係団体と調整をしていく必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 さのまちづくり(株)との連携強化を図り、スケジュールを明確にする。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなか活性化推進協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		まちなか活性化推進協議会		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係		支援事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H20	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	—	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市の中心市街地を活性化するために策定した「佐野市中心市街地活性化基本計画」を推進するため、民間による推進協議会を発足し、交付金を交付することにより運営支援を行う。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地の現状を把握し、民間主導で活性化に向けた検討を行い、中心市街地の活性化を推進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	値が大きいほど良い	4700	5000	5100	5200	5300
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大きいほど良い	170	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に 向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり (株)）を2回開催。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		協議会開催回数	回数	0	0	0	0
		事業費計	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	人の交流がさかんな商業地域となっている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	5125	5675	4858	5629	効果が上がった	○
			市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	2指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

さのまちづくり(株)は協議会設立を目指して準備を進めており、第2次中心市街地活性化基本計画の進捗管理にも大きく影響するため、令和8年度中の設立を目指して緊密な連携を取る必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td>令和8年度においても、さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり(株)）に参画。協議会設立時期を注視し、設立後の運営補助金等の予算を検討する。</td></tr></table>	取組説明	令和8年度においても、さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり(株)）に参画。協議会設立時期を注視し、設立後の運営補助金等の予算を検討する。
取組説明	令和8年度においても、さのまちづくり(株)による中心市街地活性化に関する協議会設置に向けたワーキンググループ会議（市・商工会議所・さのまちづくり(株)）に参画。協議会設立時期を注視し、設立後の運営補助金等の予算を検討する。		

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	中心市街地活性化基本計画推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	3-①	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		中心市街地活性化基本計画		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係		推進事業		項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	中心市街地の活性化に関する法律		開始年度	H27	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	－	事業分類	計画策定・管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	中心市街地の活性化策を講じるために必要な調査・研究、資料の作成を行う。 中心市街地活性化基本計画の進捗管理を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	中心市街地の現状を把握するとともに活性化に向けた検討を行い、推進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	値が大まかいほど良い	4700	5000	5100	5200	5300
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大まかいほど良い	170	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	実績なし	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		協議会開催回数	回数	0	0	0	0
		事業費計	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	人の交流が盛んな商業地域となっている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			中心市街地歩行者通行量（平日・5カ所）	人	5125	5675	4858	5629	効果が上がった	○
			市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果 目標達成 達成 未達成 目標未設定
------	-----------	-----	---

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 なし
--	-------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		人間国宝田村耕一陶芸館運		款	7	新規or継続	継続事業
	係	天明鑄物まちづくり係		営事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例、佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例施行規則		開始年度	H16	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	まちなか活性化ビル「佐野未来館」の1階にあり、年3回の企画展を開催し、人間国宝田村耕一の作品を展示・紹介している。あわせて、「まちの駅」「赤ちゃんの駅」として観光情報を提供するなど中心市街地への回遊率の向上を図っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①人間国宝田村耕一氏とその作品に対する理解を深めてもらう。 ②人間国宝田村耕一氏の業績や作品の芸術性が分かりやすく紹介されている。静かな感動と癒しの場が提供されている。必要とされる中心市街地や本市の観光情報が提供されている。
-------------------------	---

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
入館者数（陶芸館総数）	人	値が大きいほど良い	1,500	1,600	1,700	1,800	1900
まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	値が大きいほど良い	400	400	400	450	450

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	○企画展 ・田村耕一 壺の趣展（3/21～6/29） ・田村耕一の世界展（7/4～11/9） ・モトーンとカラフル（11/14～3/1） ○ギャラリートークの実施
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
企画展開催回数	回	3	3	3	3
事業費計	千円	707	914	827	781
一般財源	千円	673	892	789	740
特定財源（国・県・他）	千円	34	22	38	41
（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	入館者数は、コロナ前（平成28～30年度）は4000人を超えていたが、令和2年度に1,293人と減少し、その後は徐々に増えている。ただし、まちの駅・赤ちゃんの駅での入館者数は令和2年度の186人より増えたが、令和3～5年度は横這いの状況、令和6年度は開館20周年記念事業を開催したことによる増加。
------	--

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
入館者数（陶芸館総数）	人	1540	1788	2029	1791	効果が上がった	○
まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	260	323	365	392	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	1指標
	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標		
	未達成	1指標		
目標未設定				

※10万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

コロナ禍を経て入館者数が減少し、徐々に増えつつあるものの、コロナ前に比べると格段に減少した状況が続いている。。令和3～5年度は横這いの状況、令和6年度は開館20周年記念事業を開催したことにより増加したが、令和7年度は、ギャラリートークを実施するも、令和5年度と横這いの状況であるため、入館者数の増加が課題。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☐ その他の検討
- ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
引き続き、広報紙、マスコミ、インターネット、専門情報誌等を通じて積極的にPRを行い、関係機関にポスターの掲示やパンフレット配布の協力を依頼するなどを行い、入館者数の増加を図る。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		人間国宝田村耕一陶芸館運		款	7	新規or継続	継続事業
	係	天明鋳物まちづくり係		営委員会運営事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市人間国宝田村耕一陶		開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり	芸館条例、佐野市人間国宝		終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化	田村耕一陶芸館条例施行規					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出	則					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	人間国宝田村耕一陶芸館の円滑な運営を図るため、運営委員会を設置している。 陶芸館で開催する企画展の内容をはじめとする事業運営全般について、運営委員会で協議している。 委員は、学識経験者、関係機関・団体を代表する者及び市職員 9 名で構成されている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①適正かつ円滑な運営が図られる。 ②人間国宝田村耕一の業績や作品を広く紹介する展示内容が確保される。 ③人間国宝田村耕一の業績や作品の芸術性の高さを知ってもらう。
-------------------------	---

（3）目標値

		↓選択して下さい		後期計画				
効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
管理運営上のクレーム件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・運営委員会 令和7年11月11日(火)開催 議題：正副委員長の選任について、企画展示部会員の指名について、令和8年度企画展（案）について、令和8年度ポスター及びパンフレットの作成（案）について、没後40周年記念事業（案）について、令和7年度ギャラリートークについて ・企画展示部会 令和7年10月14日(火)開催 議題：陶芸館運営委員会の提出議題について
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
運営委員会の開催回数	回	1	1	2	1
企画展示部会の開催回数	回	1	1	1	1
事業費計	千円	38	61	106	61
一般財源	千円	38	61	106	61
特定財源（国・県・他）	千円				
（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	受付業務が業務委託になったが、受付の丁寧な対応ができていますので、クレームは来ていない。
------	--

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
管理運営上のクレーム件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	1指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果は変わらない
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
目標達成	達成 未達成 目標未設定	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
		1指標		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

運営委員の女性委員割合が低いため、委員改選時に検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 委員数を増やす必要性や予算を踏まえて委員改選時に新たな女性委員の登用が必要か検討する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市民大茶会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課		佐野市民大茶会開催支援事業		款	2	新規or継続	継続事業
	係	天明鑄物まちづくり係		業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	18	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市補助金等交付規則、佐野市民大茶会開催事業費補助金交付要綱		開始年度	H5	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地において、市民の憩いの場である万葉の里城山記念館で天明鑄物を使用した市民大茶会を開催し、茶道愛好者をはじめとする文化芸術に関心のある市民の交流の場として、まちなかの賑わいを創出するとともに、天明鑄物への関心を高めてもらう。 運営を担う市民大茶会実行委員会に補助金を支出し、活動を支援する。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

↓選択して下さい

後期計画

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民に文化芸術に触れる機会を提供し、来場者を増やすことで、市街地での回遊を促すとともに、天明鑄物への関心を高める。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者数	人	値が大きいほど良い	170,000	180,000	190,000	200,000	210,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	佐野市民大茶会実行委員会開催（3回） 天明鑄物のふるさと佐野市民大茶会 10月26日(日)開催 来場者数431人 席数 2席 ・薄茶席（和室） ・立礼席（多目的室） 第30回を記念して天明鑄物・芦屋釜の展示、説明パネルを設置した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議開催回数	回	3	3	3	3
		来場者数	人	97	946	434	431
		事業費計	千円	350	350	350	270
		一般財源	千円	350	350	350	270
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	来場者数を増やし、市街地での回遊を促すとともに、天明鑄物を使用した茶会を開催することで、天明鑄物への関心を高める。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者数	人	166,659	182,153	191,670	205,585	効果が上がった	○

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果 1指標	効果	
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標			
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
費用（R7とR6の事業費計増減）	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
	費用の増減無し				

※10万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

第30回を記念し、会場内での天明鑄物・芦屋釜の展示、説明パネルの設置をした。 また、来場者を午前の部と午後の部に分散させることで、駐車場不足等の問題に対処した。次年度以降も引き続き安全安心な茶会運営と駐車場対策を工夫し、開催する。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☐ その他の検討
- ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	
まちなか活性化と市民が文化に触れる機会づくりとして今後も取り組んでいく。	

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野新都市バス事業協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野新都市バス事業連絡協議会 設置要綱、 佐野新都市バス事業連絡協議会		開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	中心市街地と新都市を結ぶ佐野新都市バス事業を関東自動車(株)が実施するにあたり、関係機関が互いに連絡調整することにより事業の円滑な推進を図る協議会である。事務局として協議会の諸活動を行うとともに、負担金の支出等を通して支援を行う。佐野新都市バス事業連絡協議会組織 佐野市、（一社）佐野市観光協会、イオンリテール(株)、三菱地所・サイモン(株)、（学）佐野日本大学学園
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野新都市線が安定して運営され、バスを利用した中心市街地と新都市間の移動が促進される。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		佐野新都市線利用者数	千人	値が大きいほど良い	112	118	124	130	136
		1便平均乗車人数	人/便	値が大きいほど良い	19	20	21	22	23
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大きいほど良い	170	180	190	200	210

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	【市の活動】	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	・協議会の一員として佐野新都市バス事業連絡協議会に出席 (9月)	協議会の開催	回	1	2	1	1
	・負担金の支出による支援						
	【支援した団体の活動】						
	佐野新都市バス事業連絡協議会を開催（9月）し、運行継続の 支援及び利用促進策を協議。	事業費計	千円	100	100	100	100
	・令和6年度運行事業に対する事業者の負担金決定・支出	一般財源	千円	100	100	100	100
	・佐野 B T 周辺案内看板作成設置（交通政策課）等による利 用促進	特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		佐野新都市線利用者数	千人	100	83	71	73	効果が下がった	×
		1便平均乗車人数	人/便	17	14	12	12	効果が下がった	×
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	2指標	未達成		2指標
指標全体		効果が下がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

佐野新都市線は利用者数が減少傾向にあり、令和7年度以降も、赤字収支が見込まれる。令和8年3月から令和8年8月活用予定の複業人材のアドバイスを受けながら、市公共交通の認知度向上と利用促進を交通政策課等の関連部署と図っていく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度は、複業人材アドバイザー及び関係部署・団体と連携し、利用促進策の検討及び実施に向けて、協議を進めていく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	産業政策課	佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間	開始年度	R6	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	中心市街地と新都市を結ぶ佐野新都市バス事業を開東自動車(株)が実施するにあたり、関係機関が互いに連絡調整することにより事業の円滑な推進を図る協議会である。事務局として協議会の諸活動を行うとともに、負担金の支出等を通して支援を行う。佐野新都市バス事業連絡協議会組織 佐野市、（一社）佐野市観光協会、イオンリテール(株)、三菱地所・サイモン(株)、（学）佐野日本大学学園
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	バス路線の継続により佐野新都市地区の来訪者を中心市街地に誘客する。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10
		佐野新都市線利用者数	千人	値が小さいほど良い	112			
		1便平均乗車人数	人/便	値が大いほど良い	19			
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大いほど良い	170			

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・事務局として佐野新都市バス事業連絡協議会を開催（9月）し、運行継続の支援及び利用促進策を協議した。 ・令和6年度運行事業に対する事業者の負担金決定及び支出。 【支援した団体の活動】 中心市街地と佐野新都市を結ぶ路線バスの運行	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		車両台数及び運転士数	仕業	2	2	2	2
		1日運行数（平日）	便	17	17	17	17
		事業費計	千円	0	677	1,674	2,728
		一般財源	千円		677	1,674	2,728
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		佐野新都市線利用者数	千人	100	83	71	73	効果が上がった	○
		1便平均乗車人数	人/便	17	14	12	12	効果が下がった	×
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	2指標	2指標		
	効果は変わらない指標数	0指標			1指標
	効果が下がった指標数	1指標			
指標全体		効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

佐野新都市線は利用者数が減少傾向にあり、令和7年度以降も、赤字収支が見込まれる。令和8年3月から令和8年8月活用予定の複業人材のアドバイスを受けながら、市公共交通の認知度向上と利用促進を交通政策課等の関連部署と図っていく。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度は、複業人材アドバイザー及び関係部署・団体と連携し、利用促進策の検討及び実施に向けて、協議を進めていく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野駅前交流プラザ指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	佐野市佐野駅前交流プラザ 条例 佐野市佐野駅前交流プラザ 条例施行規則		開始年度	H22	実施方法	指定管理者
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	公共交通機関利用者の利便性向上及び中心市街地の活性化を推進するため、民間企業による適切な管理運営を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本施設を活用し、中心市街地の賑わいの創出及び公共交通機関利用者の利便性の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地歩行者通行量（平日・5か所）	人	値が大まかいほど良い	4700	5000	5100	5200	5300
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大まかいほど良い	170	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	施設は、1 階が待合室及び観光案内所、2階が多目的ホールである。外には交流広場があり、多目的ホール及び交流広場は市民に貸し出しを行っている。指定管理者は、施設設備の維持管理を行うとともに、指定管理者として交流広場及び多目的ホールでまちなか活性化のための事業を実施している。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		施設利用者	人	40,494	49,822	65,339	69,431
		指定・自主事業実施回数	回	39	50	70	64
		事業費計	千円	31,421	32,955	37,748	36,058
		一般財源	千円	31,421	32,955	37,748	36,058
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	人の交流が盛んな商業地域となっている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			中心市街地歩行者通行量（平日・5か所）	人	5125	5675	4858	5629	効果が上がった	○
			市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標		2指標		
	効果が上がった指標数	2指標		達成	未達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		目標未設定		
	効果が下がった指標数	0指標				
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設設置より15年を超えたことにより、利用者が安全に利用していただけるよう指定管理者と修繕や改修について検討・実施する。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☒ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	指定管理者と連携を図り、修繕について検討・実施する。
---	------	----------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野駅自由通路施設管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	都市建設部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	都市計画課				款	8	新規or継続	継続事業
	係	計画係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業 期間	開始年度	H15	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						
				佐野市佐野駅自由通路条例・規則					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野駅自由通路の良好な維持管理を図る。 自由通路の清掃、エレベーター 2 基、エスカレーター 1 基、照明及び防犯カメラの適正な維持管理を行う。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・施設を安全で快適な状態に維持する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		施設のトラブル件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・1 主要な取組 (1) 自由通路鉄道線路敷内鉄骨部分再塗装工事設計業務委託 ①概要 供用開始後20年を経過し、鉄骨部分の劣化に対処するための再塗装工事をするため、鉄道事業者に対し、市が積算した設計書を提出する。(2,134,000円) ②契約期間：令和7年6月11日～令和8年3月10日 (2) その他修繕 ・佐野駅自由通路防鳥対策修繕 (R7.4) ・佐野駅エレベーターホール雨漏り修繕工事 (R7.7) ・佐野駅自由通路南口エレベーターメインロープ等交換工事 (R7.10) ・2 施設管理 業務委託により、自由通路の清掃及びエレベーター 2基・エスカレーター 1 基の保守管理を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		清掃回数／日	回	1	1	1	1
		エレベータ等保守点検回数／月	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	6,712	6,658	17,379	10,832
		一般財源	千円	6,712	6,658	17,379	10,832
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明	・雨漏りによってエレベータの長期間使用不能となるトラブルがあった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設のトラブル件数	件	2	1	0	1	効果は変わらない	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

自由通路鉄骨部分の内、鉄道線路敷内の再塗装工事をするため、鉄道事業者との協議継続が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 市提出の設計書をもとに鉄道事業者が独自設計を実施の上、負担額を提示。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	市営駐車場維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業	
	係	産業政策係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			開始年度	S53	実施方法	一部委託	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり				終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化							
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出							
				佐野市駐車場条例、 佐野市駐車場条例 施行規則						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・中心市街地における道路交通の円滑化と、市民および観光客の商店街での買い物等の利便を図る。 ・この事業で維持管理する駐車場は、万町駐車場、田沼駅前駐車場、田沼角町駐車場、田沼仲町駐車場、葛生駅南駐車場及び葛生駅北駐車場である。 ・上記のうち、万町、田沼駅前是利用料金を徴収、それ以外は無料となっている。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	来訪者が中心市街地に車で来訪しやすくなる、また市民が中心市街地で買い物等がしやすくなるように、市営駐車場がいつでも快適に利用ができるように維持管理がなされている。	(3) 目標値		↓選択して下さい						後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11				
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0				

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	万町駐車場、田沼駅前駐車場は機械による管理を行い、それ以外は無料での利用となっている。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		営業日数	日	365	365	365	365
		事業費計	千円	6,965	7,065	7,760	6,885
		一般財源	千円	2,205	1,686	2,195	978
		特定財源（国・県・他）	千円	4,760	5,379	5,565	5,907
		（うち受益者負担）	千円	4,760	5,379	5,565	5,907

(3) 活動による効果

効果説明	適切な管理により利用者からの苦情件数は0。引き続き円滑な管理を行う。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標				
	効果が上がった指標数	0指標		達成	1指標	
	効果が変わらない指標数	1指標		未達成		
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

万町駐車場精算機の不具合があるので、令和8年度は機器入れ替えを行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	市民ギャラリー管理運営事業	実施計画事業or一般事業	施計画事	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化推進課			款	2	新規or継続	継続事業
	係	天明鑄物まちづくり係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	事業期間	目	18	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		開始年度	H22	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	まちなか活性化ビル「佐野未来館」2階に「市民ギャラリー」を設置し、市民が個人や団体で、作品の展示や音楽、演劇の発表や鑑賞の場を提供する。それにより、中心市街地における人の往来を増やし、活性化を図るとともに、市民が文化芸術に触れる機会の増加につなげる。 施設の管理運営、貸館のほか、音楽や工作等の主催事業を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民が文化芸術に触れる機会の増加につなげる。施設来場者を増やすことで、中心市街地での人の交流を活性化させる。
-------------------------	--

(3) 目標値

		↓選択して下さい		後期計画				
効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者	人	値が大きいほど良い	170,000	180,000	190,000	200,000	210,000	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	主催事業：夏を彩る、つまみ細工づくり 7月26日(土) 18人、16ミリ映画を観よう!「はれときどきぶた」上映会 8月24日(日) 21人、天明鑄物まちなか散策 12月21日(日) 13名 合計52人 貸館事業：短歌会、文化協会パソコン部門文化祭等 利用日数82日、利用者数1,080人
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
主催事業の実施回数	回	2	3	2	3
来館者	人	746	1,975	1,077	1,629
施設申請利用者	人	27	53	58	55
事業費計	千円	49	42	45	32
一般財源	千円	49	42	45	32
特定財源（国・県・他）	千円				
（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明	来館者を増やすことで、施設への関心を高める
------	-----------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者	人	166,659	182,153	191,670	205,585	効果が上がった	○

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
目標達成	達成 未達成 目標未設定	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
		1指標		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

今後も利用促進のため、主催事業によるPRを続ける。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 施設利用申請者や来場者の意見を聞き、それを反映させた取り組みで、施設への関心と利用率を向上させる。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県まちなか元気会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		栃木県まちなか元気会議参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H11	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	参画事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進することを目的として、調査研究や普及啓発活動、相互の情報交換等の取組を進めている「栃木県まちなか元気会議」に参画する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	当該会議の先進地視察や情報収集で得た知識を活かし、本市の中心市街地活性化の取組みの企画立案や既存業務の改善を行い、中心市街地の活性化を推進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大きいほど良い	170	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・負担金 5 万円の支出 ・総会、幹事会、担当者会議への出席 ・講演会、先進地視察の参加 【参画している団体の活動】 ・総会、幹事会、担当者会議の開催 ・講演会、先進地視察、研修会の開催	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議出席回数	回	2	3	2	2
		研修会出席回数	回	3	4	2	2
		事業費計	千円	50	50	50	50
		一般財源	千円	50	50	50	50
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	本市の中心市街地活性化に関する知識を得ることができ、随時その知識を活かして関係する事務事業を進めることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
指標全体		効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

なし

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 引続き団体参画を通して情報収集を行う。
---	---------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちなか活性化支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	H19	実施方法	直営
		2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	－	事業分類	支援事業
	政策		佐野市まちなか活性化事業						
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						
				補助金交付要綱					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	中心市街地及び田沼・葛生の地域市街地エリアを活性化させるため、対象区域内の空き店舗等（空き家含む）を活用して出店する事業者へ、店舗の改装費用と家賃に対して補助金を交付する。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	低未利用の空き店舗等が減り、まちなか来訪の目的となる店舗が増え、まちなかへの来訪者数が増える。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		中心市街地空き店舗活用件数	件	値が大きいほど良い	6	6	6	6	6
		地域市街地空き店舗活用件数	件	値が大きいほど良い	1	1	1	1	1
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	値が大きいほど良い	170	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	【市の活動】 空き店舗等を活用する事業者へ家賃・店舗改装費に要した経費への補助金を支出するための手続きを行うとともに、相談業務を実施した。また、不動産事業者や創業希望者等に対する補助金の周知活動や補助金活用者に対するのまちなか情報の提供等を行った。 【支援した団体・個人の活動】 まちなかでの空き店舗を活用して、飲食業や小売業等のまちなかに来訪者を増やす事業を展開した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		相談件数	件	40	40	32	24
		交付決定件数	件	10	19	26	28
		事業費計	千円	4,231	9,957	10,602	8,758
		一般財源	千円	1,231	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	3,000	9,957	10,602	8,758
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明	空き店舗等が活用された。また、出店者に対してまちなかに関係するイベント情報を提供し、連携を呼びかけることで、店舗への来店者増加とまちなか活性化を結び付けた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		中心市街地空き店舗活用件数	件	4	11	8	9	効果が上がった	○
		地域市街地空き店舗活用件数	件	0	1	2	0	効果が下がった	×
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	206	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	2指標	2指標		
	効果は変わらない指標数	0指標			1指標
	効果が下がった指標数	1指標			
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	未達成
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった		目標未設定		

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度の新型コロナ5類移行後、対象区域の空き店舗を活用し出店した事業者が多くなっており、まちなかにぎわい創出や空き店舗減少につながっている。現状の制度では、補助金名称が分かりにくいこと、空き店舗を賃貸するものと購入するもので家賃補助の有無が発生していることなどの課題がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td>令和8年4月の新制度創設により、利用者にとって分かりやすい制度名称とし、空き店舗の賃貸と購入の格差を是正するため補助対象を改装費補助に一本化した。令和8年度以降は新制度に移行するため関係団体と協力して周知を行う。</td></tr></table>	取組説明	令和8年4月の新制度創設により、利用者にとって分かりやすい制度名称とし、空き店舗の賃貸と購入の格差を是正するため補助対象を改装費補助に一本化した。令和8年度以降は新制度に移行するため関係団体と協力して周知を行う。
取組説明	令和8年4月の新制度創設により、利用者にとって分かりやすい制度名称とし、空き店舗の賃貸と購入の格差を是正するため補助対象を改装費補助に一本化した。令和8年度以降は新制度に移行するため関係団体と協力して周知を行う。		

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	駅南公園西土地区画整理事業	実施計画事業or一般事業	施設画事	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般会計	事業計画	期間限定複数年度
	課	都市整備課				款	8	新規or継続	継続事業
	係	市街地整備係				項	4	市単独or国庫補助	国庫補助事業
政策体系	体系コード	1211	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	・土地区画整理法 ・佐野市足利佐野都市計画事業 駅南公園西土地区画整理施行 条例		開始年度	H29	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	R15	事業分類	施設等整備事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	1	中心市街地の賑わいの創出						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市道佐野57号線の拡幅整備にあたり、防災面や土地利用、中心市街地活性化の観点から、一部区間について土地区画整理事業により整備する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	道路等公共施設整備により利便性・防水性や土地利用、中心市街地活性化等の観点から、一部区画について土地区画整理事業により整備する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		土地の使用収益率（累計）	%	値が大きいほど良い	57.8	79.3	100.0		
		道路工事進捗率（累計）	%	値が大きいほど良い	39.4	72.5	100.0		

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・曳家に伴う詳細設計業務委託 ・変更事業計画及び変更実施計画作成業務委託 ・物件移転補償（工作物1件） ・駅南公園擁壁工事	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		工事発注金額	千円	7,227	4,187	5,753	2,123
		業務委託発注金額	千円	2,266	19,041	8,690	5,628
		事業費計	千円	72,277	55,816	84,608	12,765
		一般財源	千円	9,446	24,221	15,208	6,088
		特定財源（国・県・他）	千円	62,831	31,595	69,400	6,677
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	物件移転が遅延（玉突きでの移転のため）している影響により、土地の使用収益も道路工事も出来なかった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		土地の使用収益率（累計）	%	33.4	38.6	39.9	39.9	効果が上がった	×
		道路工事進捗率（累計）	%	5.1	8.0	13.1	13.1	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	2指標				
	効果が上がった指標数	2指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	未達成	2指標
			目標未設定			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※1 0万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

相続問題により物件移転が進まなく事業が遅延していることから、協議移転を諦め直接施行を実施する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	土地区画整理法77条による直接施行を行う。
---	------	-----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	くずう原人まつり支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	S63	実施方法	直営
		2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	事業分類		支援事業
	政策								
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	むらおこし実行委員会（佐野市あそ商工会、市、各団体、市内事業者で構成）が主催する「くずう原人まつり」の活動を支援する事業である。嘉多山公園を会場として、8月第4土曜日に開催（令和4年度からは9月下旬に開催）。原人ステージでの地元小中高校生などによる吹奏楽等をはじめ、古代体験イベント、朝市会売店、ふれあい動物園などを実施。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	むらおこし実行委員会に対して財政支援及び広報支援を行うことで、まつり内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		くずう原人まつり来場者数	人	値が大きいほど良い	23000	23000	23000	23000	23000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	令和7年度は、9月20日（土）・21日（日）に開催され、各種ステージや体験イベント等を行った。 市としては、実行委員会に補助金2,800千円を支出。広報さの記事掲載、広報さの9月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		広報さの記事掲載回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	2,500	2,500	2,500	2,800
		一般財源	千円	2,500	2,500	2,500	2,800
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		くずう原人まつり来場者数	人	13,000	16,000	15,000	23000	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標
	未達成	
目標未設定		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

くずう原人まつりの広報周知・財政支援を継続する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	たぬまふるさと祭り支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
		2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	政策								
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						
				たぬまふるさと祭り支援事業費補助金交付要領					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	たぬまふるさと祭り実行委員会（佐野市あそ商工会が事務局）が主催する「たぬまふるさと祭り」の活動を支援する事業である。平成25年度までは田沼中央公園を、平成26・27年度は田沼庁舎と市民病院の間の市道を歩行者天国にして会場とし、平成28年度には田沼庁舎駐車場を会場としてきた。令和4年度以降は、佐野市国際クリケット場にて10月下旬ごろ開催された。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	たぬまふるさと祭り実行委員会に対し財政支援や広報支援を行うことで、祭り内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	値が大きいほど良い	17000	17000	17000	17000	17000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	令和7年度は、10月26日（日）にクリケット国際大会と同時開催 される予定だったが雨天のため中止。スカイランタンの打上のみ11月 3日（月・祝）に実施された。実行委員会に補助金2,000千円を 支出し、広報さの10月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に 情報提供を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		広報さの記事掲載回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	1,220	1,700	1,700	2,000
		一般財源	千円	1,220	1,700	1,700	2,000
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。 ※R7については雨天のため中止、スカイランタン打上のみ別日に開催した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	18,000	15,000	17,000	4000	効果が下がった	×

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成		
	効果が下がった指標数	1指標	未達成		1指標
指標全体		効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

たぬまふるさと祭りの周知・広報活動・財政支援の継続

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	初午祭交通安全対策支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり			開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	旧暦2月の初午に近い金・土・日曜日に開催される初午祭りを安全に行うため、田沼初午祭交通安全実行委員会（佐野市あそ商工会、一瓶塚稲荷神社、周辺町会、商店街、佐野警察署などで構成）の活動を支援する。本実行委員会は、初午祭の開催について、広報活動や当日の交通整理等を行っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し 上げたい 状態)	田沼初午祭交通安全実行委員会に交付金を交付することで、初午祭の無事故の運営が図られる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		初午祭来場者数	人	値が大きいほど良い	56,000	56,500	57,000	57,500	58,000
		会場内・付近での事故発生件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	令和7年度は、交通規制を伴って初午祭が実施されたことから、300千円の交付金を支出した。また、例年は金・土・日の3日間で開催されているが、令和6・令和7年度年度は土・日の2日間のみの開催となった。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		交付金支出回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	0	300	300	300
		一般財源	千円	0	300	300	300
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	2日間のみの開催であったが来場者数は増加し、目標値を達成した。 また、初午祭が事故なく運営できた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		初午祭来場者数	人	0	66,310	60,000	70,000	効果が上がった	○
		会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標		1指標	1指標	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	未達成	
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
指標全体		効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

初午祭交通安全実行委員会が行う交通規制の案内周知、財政支援を継続する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	地域市街地活性化推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	3-①	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		地域市街地活性化推進事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	R4	実施方法	一部委託
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						
				なし					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）の活性化策を講じるために必要な調査、研究及び資料を作成する。地域市街地活性化のにぎわいを創出するため、「まちなか地域おこし協力隊員」を設置する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	低未利用な空き物件等活用し、人流・店舗を増やす。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		地域市街地歩行者通行量（平日2か所）	人	値が大きいほど良い	950	1000	1050	1100	1150
		地域市街地空き店舗活用件数	件	値が大きいほど良い		1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【調査実施】	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	歩行者通行量調査、空き店舗調査、宇都宮大学学生との現地聞き取り調査、	調査実施数	件	3	4	4	3
	【地域おこし協力隊員の募集事務】	関係団体等との連携した取り組み	件	2	2	2	3
	・募集記事の作成						
	・募集イベント開催	事業費計	千円	139	4,122	5,248	3,393
	【関係団体等との連携した取組み】	一般財源	千円	139	4,122	5,248	3,393
	・宇都宮大学「地域プロジェクト演習」による学生との協働	特定財源（国・県・他）	千円				
	・松桜高校「課題研究」による学生との協働	（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	各種調査や取組みを進める中で、直接かかわりを持った者や情報発信を行った対象者などに対して、当該地域について考える機会を提供することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		地域市街地歩行者通行量（平日2か所）	人	890	1067	877	828	効果が下がった	×
		地域市街地空き店舗活用件数	件	0	1	2	0	効果が下がった	

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	2指標			1指標
	指標全体	効果が下がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・宇都宮大学との連携事業が令和7年度からの3年計画で始まり、初年度の令和7年度は課題抽出期と位置付けて、アンケートやワークショップを実施した。令和7年度に出た意見や地域課題をどう活かし次につなげていかが課題である。
・地域おこし協力隊員募集支援業務委託を活用し地域おこし協力隊員の募集を行ったが、採用には至らなかった。応募者が少ない理由の一つとして、佐野市の地域おこし協力隊員の報酬が低いということがあげられるとの話が業務委託先よりあった。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td>宇大との連携事業では大学生及び担当教授と連携し、令和7年度の活動の共有をした上で、地域課題の調査や活性化の取組を実施する。地域おこし協力隊員については、令和8年度より報酬の額が見直される予定のため、地域の魅力とともに条件面も興味のある方に届くよう、検討し実施していく。</td></tr></table>	取組説明	宇大との連携事業では大学生及び担当教授と連携し、令和7年度の活動の共有をした上で、地域課題の調査や活性化の取組を実施する。地域おこし協力隊員については、令和8年度より報酬の額が見直される予定のため、地域の魅力とともに条件面も興味のある方に届くよう、検討し実施していく。
取組説明	宇大との連携事業では大学生及び担当教授と連携し、令和7年度の活動の共有をした上で、地域課題の調査や活性化の取組を実施する。地域おこし協力隊員については、令和8年度より報酬の額が見直される予定のため、地域の魅力とともに条件面も興味のある方に届くよう、検討し実施していく。		

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	壱番館公衆トイレ維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課		壱番館公衆トイレ維持管理		款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係		事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	平成14年度	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	・地域市街地の活性化の拠点施設として設置された葛の里壱番館の公衆トイレ（葛の里壱番館東側)の維持管理を行う事業である。 ・維持管理は、まちづくり葛生㈱に委託して維持管理を行う。 ・トイレ周辺の立木の害虫駆除、剪定なども行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	来訪者(市民・観光客等)がいつでも快適に公衆トイレを利用することができるように維持管理を行う。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		地域市街地(葛生)における定住人口	人	値が大きいほど良い	1928	1916	1904	1892	1880
		施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・公衆トイレの維持管理をまちづくり葛生(株)に委託した。 ・ポケットパーク南側の生垣の剪定を実施した。(7月) ・男子トイレ小便器のセンサー不具合の修繕を行った。(8月)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		トイレ清掃作業の延べ日数	日	365	365	366	365
		周辺立木の害虫駆除等回数	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	1,014	1,116	1,132	1,454
		一般財源	千円	1,014	1,116	1,132	1,454
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明	適切に維持管理を行い、来訪者に快適に施設を利用してもらえた。	(4) 事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			地域市街地(葛生)における定住人口	人	1868	1809	1760	1709	効果が下がった	×
			施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	目標達成	達成	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標		未達成	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標			1指標		
	効果は変わらない指標数	1指標				1指標	
	効果が下がった指標数	1指標					
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった					
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断					

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

公衆トイレの不具合の報告を受け、早急に修繕を行ったことで、施設維持管理上の苦情は発生しなかった。今後も、来訪者の方に快適に利用していただけるよう、適切に管理を行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生街路灯維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	1212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	平成7年度	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	—	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						
	基本事業	2	地域市街地の特色ある発展						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・原人ロード街路灯（28基）の電気料金は、市70％、町会30％の負担割合で、町会の負担分は町会が年2回（上半期分と下半期分）に分けて市に納入する。 ・街路灯の撤去は葛生町街路灯維持管理委員会が平成27年度と平成28年度の2カ年かけて行い、撤去費用の50％を市補助金として平成27年度と平成28年度に支出（撤去費用の負担割合は市50％、葛生町街路灯維持管理委員会20％、町会30％）。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生地区内街路灯の適切な維持管理を行い、市民・来訪者が安全・快適に生活、事業活動を行うことができる。	(3) 目標値		↓選択して下さい						後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11					
		施設維持管理上の苦情件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0					

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・原人ロード街路灯(28基)の電気料金及び一般街路灯(従来より市の管理3基)の電気料金を支出。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		人口	人	116,982	115,700	114,241	111,994
		街路灯設置数	基	31	31	31	31
		事業費計	千円	697	698	700	698
		一般財源	千円	538	535	496	493
		特定財源（国・県・他）	千円	159	163	204	205
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0	0

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	適切に維持管理を行い、地域住民の安全な通行に寄与することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設維持管理上の苦情件数	件	1	0	0	0	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果が下がった指標数	0指標	未達成	未達成	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・令和7年度に関しては施設維持管理上の苦情はなかったが、街路灯が落下し破損してしまった事例があった。他の街路灯の溶接されている部分が劣化していないかの確認作業と修繕等の対応が必要になる。 ・旧葛生町において、平成6年に老朽化した街路灯を全て設置し、その管理運営を行うため、平成7年2月に葛生町街路灯管理委員会を設置し、同委員会に対して、旧葛生町で電気料の補助を実施した。その後、平成23年2月、補助金等交付検討委員会から、「(他地区では街路灯の補助は実施していないため)他地区との整合性を考えた上で、防犯灯に対する補助との関連を整理すべきである。」との提言を受けた。 ・電気料金の負担や環境負荷を考え、令和8年度に財産活用課主体でLED化工事を予定している。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ・街路灯全体の劣化箇所の確認、修繕等の対応が必要。
---	---------------------------------------